

妻との「ふたりのステージ」顛末記

S41 経済 米田 嗣幸

昨年の暑い夏の盛りでした。妻の櫻子と雑談している時、妻が言いました。「私も来年はもう70歳よ。古希になっちゃうわ。」「そういえば僕は77歳で喜寿だよ。」

そう、たまたま二人は巡り合わせでおめでたい歳が重なって来年来ることに気がついたのです。「何か記念になるようなことが出来るといいね。」そんな会話が発端でした。普通なら子供達家族と食事会でもしてというところでしょうが、「それもなあ〜」ということから何か企画をと考えるようになりました。

私は学生時代ワグネル・ソサィエティー男声合唱団に所属し、現在も同OB合唱団で歌いながらバリトンとしてソロの勉強もし、杉並三田会コーラス部ヴィエントでも歌っているというほどに、趣味の歌にのめり込んでいます。

一方の妻は、私との出会いが会社のコーラス部だったということから歌も歌うのですが、むしろ本来の趣味は演劇・朗読の世界でして、若いときから永年脚本家や朗読の先生について研鑽を積んできております。

そんなことから、二人とも趣味が舞台・ステージに縁があることに気づき、どうせなら二人で親しい人を招いて二人の歌と朗読をお披露目するのはどうかということになったのでした。(はなはだ自分勝手な催しですが・・・)

そうなる次は会場と時期をどうするかです。素人が親しい人達や縁のあった人達を招く催しですから、大きな会場は無理です。杉並区在住なので公共の比較的费用のかからないところでと、杉



並公会堂小ホールが候補に浮かびました。小ホールの会場予約は1年前が抽選なので、急遽2019年9月への抽選を申し込みましたが、競争激しくくじ運も悪くて、狙っていた土曜日 or 日曜日の午後はまったく取れません。残念！だが、金曜日の夜間なら9月20日が空いていたのでした。少々お客さんには都合がつけにくいかも知れないけどここで日程が決まりました。

次はどんな中身にするかですが、これが難しい。というのは、バリトンのソロで有名な曲とか朗読で劇的な聞き映えのする演目は、得てして悲劇的内容で暗いのが多く、喜寿・古希を記念するにはふさわしくないのです。(二人ともやりたいものから選ぶとそういうものが多い。)プログラミングに頭を悩ませました。

また、いざやるとなるとそのための態勢をととのえるのも大変です。二人とも他人を招いて披露するに恥ずかしくないだけの練習を積みねばならず、二人の合わせ練習も必要です。それも高齢の私の母の介護問題をかかえながら・・・。



いろいろありましたが、1年間の準備期間を経て今年9月20日(金)に、“喜寿と古希を記念して歌と朗読で紡ぐ”「ふたりのステージ」を開演することが出来ました。

プログラムは以下のとおりとなりました。

第一部

1. 《歌曲集「枕草子」より》 作詞：一倉宏 作曲：上田知華
 - ・清少納言「枕草子」第一段朗読（櫻子）
 - ・美しきものは（嗣幸・櫻子・チェロ中村沙穂）
 - ・日々の嬉しさ（櫻子）
2. 《セレナータ》 作曲：トスティ（嗣幸）
3. 《菩提樹》 作曲：F. シューベルト（嗣幸）
4. 《ウィーンわが夢の街》 作曲：R. スーティンスキー（櫻子）
5. 《闘牛士の歌》歌劇「カルメン」より 作曲：G. ビゼー（嗣幸）

第二部 ゲストコーナー

6. 三沢美野里さんの朗読 《外郎売》歌舞伎十八番の内
7. コール・ヘリテージの男声コーラス 《365日の紙飛行機》と《小さな空》

第三部

8. 朗読「葉っぱのフレディ」—いのちの旅—作：レオ・バスカーリア（櫻子）
ピアノ（永澤友衣）とチェロ（中村沙穂）とのコラボ（作曲：永澤友衣）
9. 《さびしいカシの木》作曲：木下牧子（嗣幸）
10. 《プロヴァンスの海と陸》歌劇「椿姫」より 作曲：G. ヴェルディ（嗣幸）
11. 《君に口づけしたい》作曲：D. カプア（嗣幸）

第一部・第二部・第三部を通じてピアノ伴奏は永澤友衣



ご覧の通りの盛りだくさんな内容で、よくこんなことができたというのが正直なところです。

当日は190席の会場にほぼ満席の来場者を得て熱気あふれる状態となりました。企画したときは本当に皆さん来てくれるかな、客席がガラガラだったらどうしよう、と心配しましたが、実際にはキャンセル待ちも出てしまい、逆にご案内をセーブして申し訳ない思いも

しました。司会進行は娘の真澄に頼んだのですが、「二人の娘です。」の挨拶でドッと会場が沸き、柔らかな家族的な雰囲気広がったのも有り難かったです。

ステージの進行はワグネル同期の小島君がステマネを努めてくれ、櫻子の朗読仲間の家塚さんがステマネ補助、その他の会場係なども仲間うちやその家族の協力でこなすという、手作り感満載の催しとなりました。

とても中身の濃い演奏会となりましたが、朗読「葉っぱのフレディ」が当初は朗読単独の企画だったのが、ピアノの永澤さんが以前この物語の作曲をしたことがあるということから、その曲のピアノ・チェロの演奏とコラボレーションすることになり、舞台照明の変化も工夫して充実したステージになったことがすごく効果的であったように思います。



全般を通して、温かい雰囲気にも包まれた会場で気持ち良く演奏し、語ることができました。ちょっとした失敗もあったとはいえかなり良い出来映えの演奏になったのではないのでしょうか。ご来場の皆さんの温かい眼差し、盛大な拍手が大きな力となり、私達を後押しして下さいました。

アンコールでは、メリーウィドウの二重唱で調子に乗ったふたりはダンス(?)まで披露してしまいましたが、まさに“喜寿と古希を記念”した思い出となりました。



杉並三田会の皆様からはコーラス部「ヴィエント」のメンバーが大勢ご来場頂きましたが、その他の皆様に会場人数の関係で広くご案内することが出来なかったのが残念で、申し訳なく思っております。ご来場頂いた皆様、お手伝い頂いた皆様、出演された演奏者・ゲストの皆様、ご指導頂いた先生方に深く感謝申し上げます。有り難うございました。